

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000033		
法人名	有限会社 敬愛サービス		
事業所名	グループホーム そるぶす豊幌 あかり		
所在地	江別市豊幌美咲町2番地2		
自己評価作成日	令和2年3月15日	評価結果市町村受理日	令和2年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=0191000033-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和2年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の「一人ひとりの喜怒哀楽で輝くところ」の理念の下、人のもつさまざまな感情の中で、喜びや楽しみだけではなく怒りや悲しみも全て受け止めその人らしく、充実した日常生活を送ることができる様、職員一同お手伝いさせていただいております。また、自治会や地域への行事にも積極的に参加をし、地域社会の一員として生活の継続に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一昨年、全職員で、新たに基本理念、事業理念、介護理念を策定しました。地域密着型サービスの事業所として、地域との関りを重視しています。町内会に加入し、利用者が町内のゴミ拾いやイベントに参加したり、事業所の敷地にある菜園の収穫祭などに地域の子どもが参加するなど、交流が盛んです。近隣住民から認知症などの相談を受けることもあります。毎週、訪問看護や医師の往診があり、利用者の健康管理を行っています。利用者の健康状態は、訪問看護の看護師から往診医に伝え、適切な医療支援につながっています。事業所には、非常用の食料や飲料水の備蓄を1週間分以上確保し、さらに自家発電機を備え、停電の対策も行っています。冬季の災害時には、薪ストーブで暖を取ることもできます。市内にある法人のもう一つのグループホームと合同でイベントを開催し、利用者や職員の交流を深めています。利用者は職員に自分の思いを率直に伝えることができます。また、職員も利用者の意思を尊重し、日々の支援を行っています。事業所の建物内は広々とした造りで、清掃も行き届き、ゆったりと落ち着いた生活を送ることができます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある			○	3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が	令和元年度 株式会社ソーシャルリサーチ			
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員が常に目に入る場所に掲げている。ユニット会議前には参加職員皆で唱和し確認している。	職員が参加し、地域との関りを重視し、系列の事業所と共通の理念を策定しました。運営理念と共に、事業理念と介護理念を3本柱とし、玄関や階段に掲示して職員への周知を図っています。職員は、日々、理念に立ち返り、毎日の支援に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生が気軽に訪問に来ている。事業所の季節行事に地域の子供たちや大人も参加しやすいように工夫している。	事業所として町内会に加入し、利用者は町内のゴミ拾いに参加したり、職員と共に回覧板を渡しに行く等、地域住民との交流があります。事業所の行事には近隣の子供を含め、多数の参加があります。近隣住民から認知症などの相談を受けることもあります。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象とした、認知症への理解を深めるための研修を包括と連携して行った。また、オレンジメイトとして対象地域への講義を行っている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度、民生委員、包括、家族、利用者等の参加で意見や希望などを参考にサービス向上に活かしている。	会議を定期的に行い、利用者や町内会、民生委員等が参加し、地域の中での事業所の在り方を話す機会となっています。参加者から、地域のイベント情報を得るなど、事業所運営に役立っています。議事録を家族に送付し、事業所の現状を伝えています。	議事録を家族に送付し、運営推進会議の設置や話し合っている内容について周知していません。しかし、家族の参加にはつながっていません。今後は、会議の案内や議題を事前に告知するなど工夫を行い、家族の参加につなげることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表を中心に取り組んでいる。	利用者の要介護認定更新や変更時に市役所に訪問し、事業所の現状を伝えています。また、研修に市担当者を招く等、関係の維持に努めています。社協と、利用者の権利擁護や成年後見の相談をするなど、連携しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開錠しており、ケアについてはユニット会議等で拘束をしていない事への認識を共有している。	定期的に身体拘束適正化委員会を同一法人の2事業所合同で行い、身体拘束に係る内部研修も合同で行っています。身体拘束の指針を定め、適正な運用に努めています。身体拘束のグレーゾーンに当たる対応について、会議の中で具体例を挙げ、話をしています。玄関は夜間のみ、安全確保のため施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やユニット会議等で学ぶ機会を多く持ち、虐待への防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他のユニットでは、成年後見人を利用している方もいて、会議でも説明をして理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書の説明をするときには、専門用語を使用することなく、十分な説明をして理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、要望などを聞き取り、運営に反映させている。利用者にはモニタリングで要望を聞き、全職員で共有している。	ユニットごとに職員の写真と名前を掲示し、家族が意見や要望を表明し易くする工夫をしています。訪問のない家族には、支援計画変更時に電話や手紙で、運営に対する要望の確認も行っています。得られた意見や要望は、施設長に集められ、検討を行い、反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で、気づいたことや思ったことを伝えられるように努め、働きやすい職場を目指している。	職員は年2回の管理者面談で、意見や要望を直接伝えることができます。また管理者は、月1回のユニット会議でも、職員から備品の買い替え提案などを聞き、入れ替えの検討を行うなど、運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々との聞き取りの時間を設け、環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修を通じて、学ぶ機会を設けて経験の有無の関わらず高めあう努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内のグループホームとの研修や交流会を通してサービスの向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人が戸惑っている様子や困りごとなどに寄り添い、安心できる関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安にはできる限り答え、安心していただけるよう努めている。また、来園時にはご本人の近況などを伝え関わりを増やすよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一つのサービスの説明だけでなく、現在の状態に必要なもの、それに付随するサービスも併せて伝えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービス業のため、利用者と職員であるが、1つの家で暮らす家族として関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じた家族の支援だけでなく、面会や、家族も参加できるイベントを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族や友人の面会は望み通り受け、本人の使っていた家具はそのまま使い可能な限り部屋づくりや生活環境等、話を聞くよう努めている。	利用者や職員は地元出身者が多く、馴染みの店や地域の話は、共通の話題となっています。職員と一緒に地元の老舗ラーメン店を訪れたり、事業所の行事に、家族だけではなく、友人にも参加を求めるなど、馴染みの関係の維持に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話しやすいよう、必要に応じて話題を提供したり全員が参加できるようなイベントを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も何か不安や質問には可能な限り親身に対応するよう心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の思いを第一として可能な限り、叶えるよう努めている。	職員は、入浴時など一対一でリラックスできる時に、何気なく発せられる利用者の思いや意向を捉えるように心がけています。得られた思いや意向を職員間で共有し、アセスメントシートに記載すると共に、対応できるものは、できる限り早く対応するように努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートやご本人様との会話から、どのように暮らしていたか把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活で知ったご本人様の生活リズムを頭に入れ、いつもと違いはないか観察を行い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中でできること、できないことを見極めできないことをサポートする為に、家族・職員と話し合い介護計画を作成している。	介護計画は3ヵ月毎に職員とケアマネジャーがモニタリングを行い、利用者、家族の要望を取り入れ、担当者会議の後、本人に説明し同意を得て更新しています。支援の内容を重要な部分に絞り、具体的な行動をシンプルにすることで、日々の支援の内容が分かりやすくなる工夫をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録や業務日誌、申し送りノートを活用し、職員間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する利用者・家族のことを把握することで、スムーズな支援をすることができる、家族との連絡を取ることに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他グループホームで行われているイベントや地域の祭り等、職員と共に参加し、現状だけでなく広く楽しめるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問看護を定期的に受けている。	利用者は全員、往診医をかかりつけ医としています。利用者の状態は、訪問看護の看護師から往診医へ伝えられ、医師から状態確認の連絡が入るなど、関係は良好です。利用者は希望の病院を受診でき、通院には家族や職員が同行しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の変化を日々観察し、気になることがあれば、訪問診療や訪問看護時に相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療・訪問看護と利用者の近況情報を交換し、小さい症状から相談等できる関係性を心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	家族・本人の意を組み、可能な限り利用者の望みを叶えられるよう取り組んでいる。	重度化や終末期の指針を定め、入居時に説明し、同意を得ています。利用者の状態の変化に合わせ、医師の判断で、医師と家族、事業所の三者で今後の方針を共有しています。看取り時には、家族に別棟の2階を開放し、利用者の近くに居られるように配慮しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・特変時に何をすればいいか施設・職員同士にて話し合い把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の経験や、地域の職員・関係者等、必要時に駆け付けられるよう体制を築いている。	年2回の避難訓練は入居者も参加し、昼・夜想定で行っています。訓練には全職員が最低1回参加しています。消防署から、洪水時の避難場所の助言を受け、対応を検討しています。食料や飲料水の備蓄を一週間以上確保し、さらに、自家発電機も用意しています。	ハザードマップでは河川からの浸水歴がある地域に位置するため、事業所建物は洪水対策を講じた設計です。しかし、訓練は、火災への対応だけでなく、地域特性を考慮して、水害の際の避難についても、消防署の助言を取り入れた避難訓練を行う事を期待します。
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分より目上の人だという認識を忘れず、言葉遣いや態度に注意しながら、対応することで信頼関係を築いている。	管理者は、会議や勉強会で、利用者の尊厳やプライバシーを尊重するよう、職員に伝え、意識の醸成に努めています。利用者に関する申し送り等は、職員だけが分かる符号を用い、利用者を特定できないようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や、遠慮して言えない場合等を組み取れるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している	可能な限り、本人の望みを聞き叶えられるよう行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の望む服や、格好を引き出し着ていただけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にパタカラ体操をしてこれから食事をするという感じを持っていただき、食事片付けや洗い物は一緒に流しに立ち行ったりしている。	利用者は職員と一緒に食材やおやつを宅配サービスのカタログから選んだり、山菜の収穫時期には、下ごしらえに参加しています。また、外食の機会を設け、毎日の食に変化をつけるよう、支援しています。	
41	16	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月のユニット会議で常に食事については全員の状況を把握、共有している。食材発注会社の栄養士が作成したメニューにより、栄養については常にバランス良く提供できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけ自立を促して、必要に応じ介助にて口腔内の清潔を保持している。		
43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自排尿・自排便を行っていただけるよう、本人のサインを見逃さないよう努めている。	利用者ごとに排泄の情報を記録し、トイレへの声掛け誘導に活かしています。利用者の多くは、自らトイレに行くことができ、職員は移動の補助を行うなど、最小限の支援を行い、機能の維持に努めています。	
44	17	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫は勿論、医師と連携し、本人の負担が少ない排泄を行うよう努めている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	本人の意思に重点をおき、可能な限り、ゆっくり入れるよう努めている。	入浴は週に2回以上とし、曜日や時間帯を特に定めず、利用者の希望を反映しています。入浴を拒否する利用者には、お風呂の温かさや入浴剤の色や香りなど、五感に訴え、前向きな気分で入浴できるよう工夫をしています。	
46	17	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間を設定しているが必ずしも、その時間にはではなく、本人の意思で行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用を理解し、病状に応じ医師、看護師に連絡を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を理解し、手伝い、話題の提供、レクリエーションの企画などを実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者全員参加の外出行事や外に畑を作り、色んな人たちが集まれる工夫をしている。	利用者が職員と一緒にゴミ出しや回覧板を届けに行く等、外の空気に触れる機会を設けています。さらに、近隣の大きな公園での散歩やちょっとしたドライブ等を楽しんでいます。初詣や墓参りなど、利用者個別の外出希望も、家族と協力して支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される利用者には、ご家族と相談の上、少額ではあるが現金を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、郵便物の投函など対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルなどの配置は、利用者の歩行、移動の能力を理解した上で、動線が確保されるように配置している。季節ごとの飾りつけをしている。	共用空間は広々しており、清掃が行き届いています。室温は26度を基本としていますが、利用者の希望を反映して、こまめに調整しています。冬場の湿度は30%を目標に加湿しています。年末年始は事業所で餅つきをして、鏡餅や繭玉をつくるなど、季節感を感じる工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の性格や相性などに配慮し座席や、ソファの配置など工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室のタンス等は自宅で使用し、使い慣れたものを持参していただいている。	入居時の案内に馴染みの物の持参を依頼するなど、利用者の居心地に配慮しています。歩行状態に合わせ、家具の配置の調整で伝い歩きができるようにするなど、居室での安全確保に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器でも安全に移動できるよう、動線の配慮、手すりの設置、トイレに目印をつけるなど対応している。		